

# 福井県池田町一寸紹介



「農村力」は日本を変える。  
～農村復活への挑戦～

## はじめに

池田町は、福井県の東南部に位置し、岐阜県と接する典型的な中山間地域です。町の中心を清流足羽川が流れ、日本の滝100選に選ばれた「龍双ヶ滝」、残したい自然100選に選ばれた「冠山」(1256.6m)などがあり、のどかで豊かな日本の農村風景が広がる町です。

また、国の重要無形民俗文化財(国の宝)に指定された「水海(みずうみ)の田楽能舞」は、約800年にわたり受け継がれています。

町の人口は約3,800人、町の面積は約195平方キロメートル(19,500ha)ありますが、その約92%は山林です。農地のほとんどが水田で約500haあります。

池田町は、全国にある「まちやむら」と比べて超一流のものはありませんが、人や文化、自然や環境という地域資源(宝)では劣るものではないと自負しながら、「有名から名門へのまちづくり」を目指し取り組んでいます。

福井県池田町長 杉本 博文

### 特色ある池田町の取り組み

#### 地域資源連結循環型農業への取組み

農業は「百姓」と言われてきました、語源や意味はいくつかあるようです。しかし、近代の農業は地域に一つの産物を普及定着させ、特産とする手法を用い、産地を形成させる道を歩んできたといえます。

池田町では、水稻単作地でほとんどが兼業農家という現状を逆手に捉え、一品を特産にではなく、百の技で逸品を生み出そうと考え、百の匠がひとつ「百匠一品」のブランド化に取り組んでいます。

- 「ゆうきちゃん、げんきくん」正直農業の展開
- 文化技術(先人から伝わる知恵の技術)の普及
- 産直ショップ「こっぽい屋」を福井市へ出店

#### 環境向上への取組み

21世紀は環境の世紀といわれていますが、それは「人と自然との関係」すなわち「人の意識と行動の関係」が問われる時代なのだと考えています。

また、池田町にとっても「自然や環境」さらには「自然や環境とつながった生活文化」こそが宝であり、誇りの「商品」なのです。

そこで、池田町では、清き水、きれいな空気、肥沃な土、豊かな文化を磨こうと「自助・共助・公助」の理念、「相互扶助」の精神を基に各種の取り組みを展開しています。

- 町民有志の100人のパートナー会議による「環境向上基本計画」の策定
- NPO法人による生ゴミ回収、堆肥化事業「食Uターン事業」の展開
- 「ゴミ分別大辞典」の全戸配布
- エコポイント制度の展開
- 資源再生アタック100運動の実施

## 環境向上運動・農業復活運動のはじまり

### \* \* 町の価値を見失う？ \* \* ...参考資料 1

中山間地域に位置し、自然豊かな福井県池田町（人口:3,743人、1,126世帯）。「池田町のよいところは？」と尋ねると「豊かな緑、美しい水」と誰もが答えます。しかし現実は、都会的・効率・経済最優先の社会に価値を認め、高齢・過疎化が進んだ不便な田舎の町というイメージが拭い去れず、池田町の価値に気づかずにつなぎました。

### \* \* 環境向上への社会のうねり \* \*

「環境社会」「地域循環型社会」に目覚めはじめた21世紀。池田町が持つ大きな資源（四季の風土や文化が育んだ水や空気、農村社会で生きてきた人々が培ってきた歴史・文化）を活かし、輝かせる時代がやってきたと捉え、「環境」「農業」を切り口としたまちづくりに取り組むこととしました。

## 環境・農業のまちづくりのはじまり（着想と行動）

### \* \* 百匠一品 \* \* ...参考資料 2

平成11年に福井市内の大型ショッピングセンター内にアンテナショップ「池田町ショッピングこっぽい屋」を出店。「一村一品」でなく、「百匠一品（少量・多品目の商品を商品化する）」を販売戦略に掲げ、自給的兼業農家の主婦たちが作る農産物を商品化しました。

その商品は、生産地が見え、安全安心ということで大ヒット。予想以上に売上げをのばしたことにより、社会が環境配慮した商品を求めていることを実感し、池田町は環境先進農村になることで輝くことができると思いついたのです。

### \* \* 一人の百歩より、百人の一步へ \* \* ...参考資料 3

平成15年に「池田町環境向上基本計画」を策定しました。

地域の価値を再評価する発想を住民に気づいてほしいということと、がまんと地味な環境行動に対して、より多くの人が一步踏み出すきっかけになればと、一般住民100人に策定委員を依頼したところ、喜んで引き受けられました。コンサルに頼らず、無報酬・手弁当で計画の素案をつくり上げ、自分たちの計画を町長に対して提案することができました。

### \* \* 「私をかえる、あなたをかえる、町をかえる」かえるプロジェクト \* \* ...参考資料 4

基本プランとともに提案された実践行動プラン、名づけて「かえるプロジェクト」には、「意識をかえる」「行動をかえる」「町をかえる」等の思いが込められています。自助・共助・公助の役割分担で確実な歩みを目指す行動の手引きとして、町の計画にも盛り込まれました。

策定したメンバーは、提案を終えた時点で解散しましたが、この思いを込めたプランを現実のものとするため、自主的に団体を設立（環境パートナー池田、会員54名）。ミニコミ紙「かえる通信」を毎月全戸配布するなど、住民自身のリーダーシップで環境向上活動を展開中です。

## 百人の一歩、かえるの足跡づくり

### ＊＊ゆうきちゃん、げんき君で環境農業＊＊ ...参考資料5

消費者の「安全・安心」な農産物を求める期待にこたえるため、池田町独自の栽培基準と認証制度をつくり、減農薬・無化学肥料農業「ゆうきちゃん・げんきくん正直農業」に取り組んでいます。農家は、「正直農場」の看板を掲げ、栽培管理をし、認証を受けるとキャラクターを使った「ゆうきちゃん・げんき君」シールを貼ることができます。このシールを貼った農産物がアンテナショップでまたまた大人気となりました。

### ＊＊「三種混合」「三位合体」の食Uターン事業＊＊ ...参考資料6

池田町では、一つの循環型社会がなりたっています。それは、家庭の生ゴミ・畜産業の牛ふん、米作りのもみ殻の三種類を混ぜ合わせて堆肥化する事業「食Uターン事業」である。中でも特徴的なところは、生ゴミの回収を住民で結成されたNPO法人（会員60名）が担っていることです。NPOが全町的に回収を担うのは全国でも珍しいとのこと。「農」が暮らしに息づいている池田町ならではのことです。

できた堆肥は、土に命を吹き込むという意味で「土魂壌」と名づけられ、ゆうき・げんき正直農業に取り組む農家の土作りに多いに利用され、行政・住民・NPOの三者の協働で地域資源連結循環型社会が確立されています。

## ギャラリーからプレーヤーへ(まちづくり運動への広がり)

### ＊＊美しい農村を守るための取り組み＊＊ ...参考資料7

日本の農業が果たしうる社会的役割の一つに「農村風景の保全」があります。美しい山や、清らかな川、手入れされた農地を守るため、「池田町の水を清く守る条例(水源保護条例)」を制定したり、(財)池田町農林公社(農地保有合理化法人)が限界耕作地の管理耕作を担うなどの取り組みを進めています。また、景観と生態系を壊す恐れのある「セイタカアワダチソウ」駆除にも取り組んでいます。今後は、景観法に基づく景観条例(美の条例)を制定する予定です。

### ＊＊右足から左足への第一歩＊＊ ...参考資料8

家族のための野菜づくりしかしてこなかった女性たちが、「こっぽい屋」で年間1億円を売り上げる店の機動力になっています。専門的な知識もなく普通に生活している視点での議論が町を動かす環境向上基本計画となりました。こうした一歩の歩みの中で、「生ごみは資源」と家庭からの生ゴミ分別を語る意識の高い人が増え、生ごみ回収を楽しく、仲間づくりをしながら行なうNPO法人ができるまでになったのです。

例年開催される町のイベント「農林ピック・そばフェスタ」でも、主催者・来場者伴に協力してごみを減らす取り組みを展開。そこでは町の中学生が環境ボランティアとして大活躍

です。

町の価値を見失いかけていた住民は、はじめから地域の将来性や、農業・環境の可能性について自信があったわけではありません。現在にいたるまでには、ごみの分別普及啓発から、農業分野での熱心な指導、堆肥製品化の研究、計画委員の選出等いくつかの壁がありましたが、これを乗り越え、誇りに思うことができるしくみを作り上げることができました。その結果、今、農業復活、環境向上に向かう大きな運動がうねりとなっておこりつつあるのです。

住民参加を目的とするのではなく、住民が主役になって実際の行動をはじめることで、農業・環境のまちづくりを1つ前の大きなステージにあげることができました。これから先、また次の一步をふみだすことで、私たちが目指す「環境先進農村」＝「環境理想郷（エコトピア）」にさらに一步近づくことができ、足跡が残されていくと考えています。

#### **＊＊女性がかえる、家族・地域のくらしをかえる、町をかえる＊＊**

農業再生・環境向上の行動は家庭生活に密着している事が多いためか、女性の意識や行動が大きな力になっています。

食の安全性や本当の豊かさを求めるためのしくみづくりなど、次の社会を創り上げていくステップへの原動力も、もしかしたら女性かもしれません。

## 池田町の概要

### (1) 地勢

福井県池田町は、足羽川の最上流にある小盆地の町であり、岐阜県との県境に位置します。

交通のアクセスは、公共交通としてのバス便も少なく、自動車交通が基本の地域です。

近接するインターチェンジは、福井IC、鯖江IC、武生ICでそれぞれ30~45分程度で行ける距離にあります。

町土の194.72haのうち91.7%が森林で、農地は約500haとなっており、農林業が基盤のまちです。



### (2) 人口等

人口は3,743人、世帯数1,126戸（平成16年9月1日現在）であり、年々減少が続く過疎の町です。

人口構成の特徴として、36.6%が高齢者であり、県内1位の高齢化率となっています。



池田町の田園風景



残したい日本の自然100  
冠山

## 参考資料 2

### 池田町ショップ こっぽい屋

平成11年7月、福井市内のショッピングセンター「ベル」内にオープンし、野菜を中心とした池田町の農林産物の販売を行なっています。

「一村一品」でなく、「百匠一品」(少量多品目の商品を商品化)を販売戦略に、兼業農家の主婦たちがつくる農産物を商品化しました。

単に物をつくるだけの生産者から、消費者の顔が見え、心がわかる生産者になるため、生産会員は毎日交代で店舗に立ち消費者とのコミュニケーションを図る努力もしています。

#### ・販売実績

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
売上高	40,800千円	68,668千円	85,553千円	108,765千円
来客数	75,278人	118,236人	146,160人	168,013人

#### 生産者の組織「101匠の会」

こっぽい屋へ出荷するための生産者の団体で、会員数は個人が173人、団体が11団体加入しています。これまでには、自分の家族のために作ってきた野菜を出荷するようになり、安全・安心な野菜づくりに一生懸命取り組んでいます。



朝の出荷の様子



交代で店に立ちます



勉強会の様子



営農指導の様子

## 参考資料 3

### 池田町環境向上基本計画（平成15年9月策定）

一般町民100人でつくった「100人のパートナー会議」で、今までのよう行政主導の計画づくりではなく、住民自身が「ふるさとの環境をいかに守り伝えるか」「自分たちにできることは何か」をみんなで話し合い、住民主体のプランをまとめました。

このプランを基に、池田町環境向上基本計画が策定されました。この計画には実践行動計画「かえるプロジェクト」が明記されていて、自助（私たちが実践すること）、共助（住民、地域社会、行政みんなが力をあわせて取組むこと）、公助（町などが施策として取組むこと）の役割分担を明確にし、環境理想郷を目指すこととされています。



\* 100人のパートナー会議は3月に町長報告会をもって解散しましたが、パートナー会議が土台となって環境行動を実践する団体「環境パートナー池田」が設立されました。

#### 〔計画ができるまでの経過〕

平成14年7月	町内に在住する一般町民100人が集まり、100人のパートナー会議が設立。
7月～12月	分野ごとに「緑・土」「大気」「自然環境」「水」「くらし」の5チームに分かれて月1～2回のペースで会議を開催。延べ88回開催し、延べ907人が参加。
12月	中間報告会
平成15年3月	100人で作った環境向上プラン」完成 完成報告会を開催。町長に対しプランを提案。 議会・農協・森林組合・商工会にもプラン実現のため取組を要請
平成15年9月	池田町環境向上基本計画策定



## 参考資料 3

### 計画の概要

分 野	基本方針(目標)	施策の方向
緑	やまに入ろう	山に親しむ 山を守り育てる 山に学ぶ
土	土に触れよう	土に親しみ、味わい、その力を実感する 土を知り、学び、育てる 土を守る
大気	すがすがしい空気を守る	温暖化から守る 有害物質から守る 心にひびく音、香りを感じる空間を創り伝える
自然環境	未来に残そう池田の自然	身近な動植物と共生する 貴重な動植物を守る 自然と調和する
水	きれいな水を守る	水に親しむ、学ぶ 水を豊かにする 水をきれいにする
くらし	ふりかえって、見直して、行動する！	ゴミを資源として再生する 資源やエネルギーを節約する 環境に優しくする 自分たちの意識を変える
学び伝える	心と心をつないで育て合う	学ぶ 伝える 育てる

### かえるプロジェクト(環境向上実践計画)の一例

自 助 〔意識を変えて実践〕	共 助 〔みんなが力を出し合い運動として実践〕	公 助 〔行政・公共団体が実践〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなではじめる6力条</li> </ul> <p>第1条 ゴミを減らす 第2条 野焼きをやめる 第3条 水を守る 第4条 森・水・土を守る 第5条 不法投棄を防ぐ 第6条 みんなで進める</p>	<p>・川クリーン作戦 主催 池田町区長会 まちおこし21</p> <p>・セイタカアワダチソウ撲滅運動 主催 まちおこし21 協力 環境パートナー池田 環境Uフレンズ</p> <p>・エコポイント大作戦 企画 環境パートナー池田 環境Uフレンズ 池田町役場</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・池田町の水を清く守る条例の適正運用</li> <li>・池田町騒音防止条例の適正運用</li> <li>・食Uターン事業の推進</li> <li>・下水道、合併浄化槽の接続推進</li> <li>・環境団体の支援</li> </ul>

## 住民主体のしくみ

### エコポイント事業

#### 目的

自主的に行なう環境行動を住民に定着させ、町民みんなが環境にやさしい行動を暮らしの中に広げていくことを目指し、みんなが実践できるしくみをつくりあげることを目指します。



#### 企画・運営

環境パートナー池田

#### 協力

池田町・池田町商工会

協賛商店

38店

#### 内容

平成15年度に試験的に行なったエコポイント大作戦を見直し平成16年度年間を通じて実施しています。

交換については、マイバッグ持参等の環境行動で協賛店等からポイントがもらえカード一杯(24ポイント)たまると100円の商品券として協賛店で使用できます。

#### エコポイントの対象行動

1. 買い物袋持参での買い物
2. 買い物時にレジ袋を断る
3. アイドリングストップをして給油する
4. 食レターン専用紙袋を購入する
5. エコマークを収集する
6. 町・環境団体が主催する環境講座、教室、体験会等への参加
7. 町・環境団体等が実施するクリーン作戦など(セイタカアワダチソウ駆除)に参加する
8. クリーニング店でハンガーを断る
9. 鮮魚、生鮮野菜、豆腐等の移動販売時に皿、鍋等を持参しレジ袋を断る



#### 事業の特徴

柔軟な発想と手法で多くの住民が取り組みやすいものにするため、企画・運営を任意団体「環境パートナー池田」に委託しました。また、協賛商店は、協賛金を支払うことで参加意識を高め、商工会がポイント換金のとりまとめをするなど、多くの人がかかわる取組となりました。今後も協賛商店を交えた企画会議等を開催して、進行状況を見直し取組を進めていく方針です。

## ゆうき・げんき正直農業

池田町において、化学肥料を使わずに土本来の豊かさを取り戻し、農薬の利用を極力減らして、食べる人と作る人の健康を目指しながら、楽しく、そして自然と人に優しい農業を進めることができます。そして、豊かな土、美しい水、澄んだ空気などの自然や田園風景などの農村文化がのこされているすばらしい町にしていくことを通じて、農産物の付加価値だけでなく、池田町の付加価値を一層高めていくことを目指しています。

### (栽培ルール)

	米	野菜
堆肥	土壤または土質に応じて使用する	土壤または土質に応じて使用する
化学肥料	一切使わない(有機質肥料や自分で作った肥料を使用)	一切使わない(有機質肥料や自分で作った肥料を使用)
化学合成農薬	1回+文化技術の活用	1回+文化技術の活用
除草剤	1回+文化技術の活用	文化技術の活用

### (生産管理システム)

生産者の登録

看板設置



栽培管理簿の記入

現地指導会開催



シール交付申請

ゆうき・げんきシール

現地確認

栽培管理簿に基づく現地審査

シールの交付

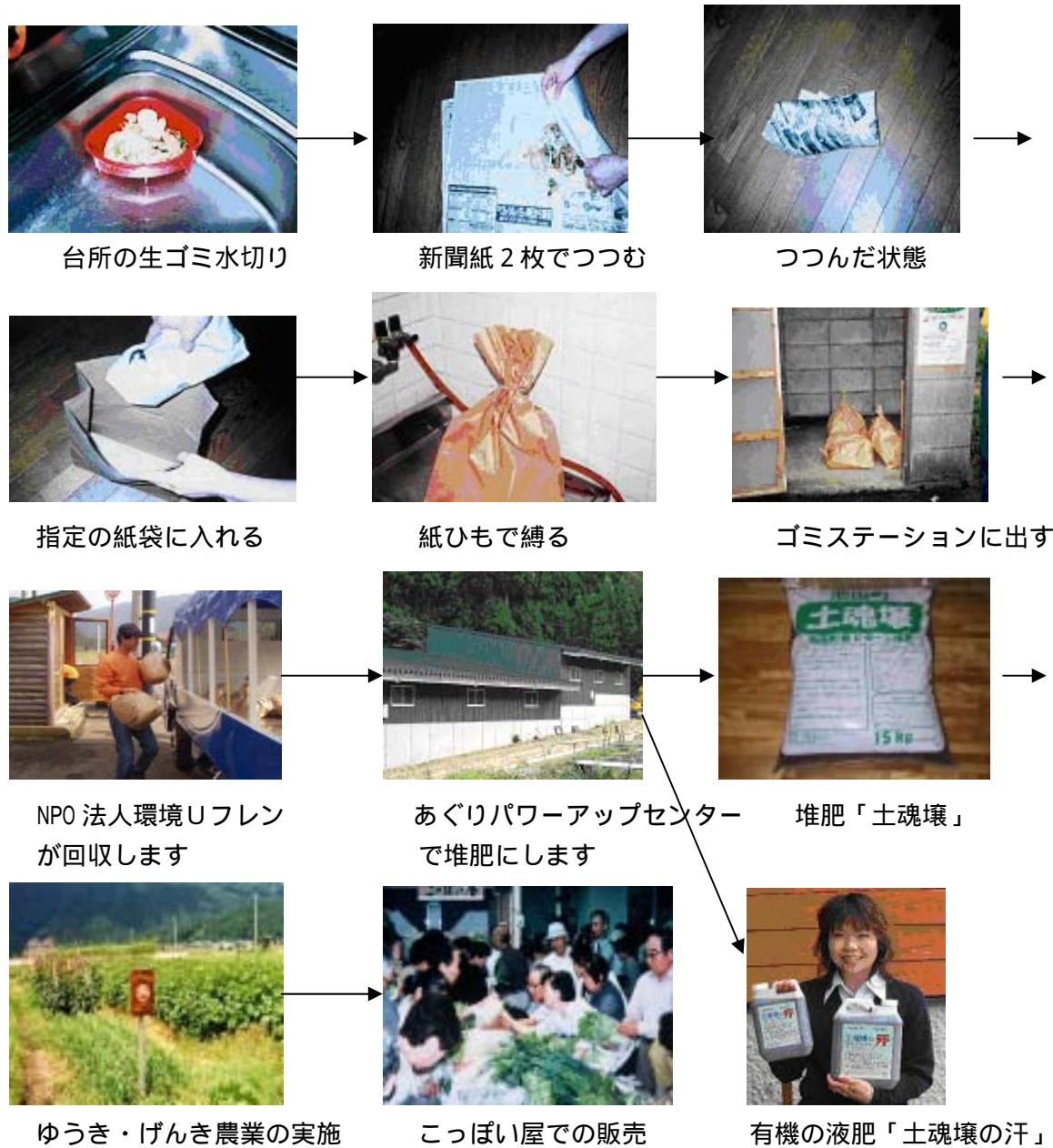


## 食Uターン事業の推進

池田町では早くから牛ふん堆肥を利用した米づくり（有機米づくり）に取組んできました。平成14年11月に堆肥センター「あぐりパワーアップセンター」が完成し、家庭の生ごみ「資源」と位置づけ、牛ふんプラスもみがらを混ぜて品質の良い堆肥づくりによりみがえらせる食Uターン事業を進めています。

各家庭では水切りや分別を徹底し、町民で構成する「NPO法人環境Uフレンズ（会員60人）」が生ごみを回収します。

～食Uターン事業の流れ～



\* 平成15年度で回収した「食品資源(生ゴミ)」81トン

食品資源	牛糞	堆肥販売量
81トン	808トン	562トン (袋:7000袋)

## 池田町農林公社の概要

### (1)事業内容

- 農地保全事業(耕作放棄地の保全)
- 担い手育成事業(認定農家の育成)
- 地域資源循環型農村づくり(堆肥センター運営)
- 交流事業・教育事業
- 特産品育成・研究事業(こっぽい屋事務局)



財)池田町農林公社

ファーム F

### (2)職員体制

資本金 6000 万円 職員 8 名

### (3)農地保全事業の内容

	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
農地の受託 総面積	7.1	11.2	14.8	19.1	22.5	29.2	33.3	38.1	42.9	44.9
再委託面積	0.6	3.9	6.2	8.1	6.8	12.9	13.5	21.3	26.4	30.9
公社管理 面積	6.5	7.3	8.6	11	15.7	16.3	19.8	16.8	16.5	13.9

## セイタカアワダチソウ一斉駆除大作戦

企 画 まちおこし 21

協 力 環境パートナー池田・環境Uフレンズ

町内でも少しづつセイタカアワダチソウが群生し、在来の植物の生態系を壊す恐れがあるとして「まちおこし 21」が呼びかけ、セイタカアワダチソウの一斉駆除を行なっています。

平成 15 年からはじめたこの大作戦は、まちおこし 21 が調査した町内の分布図をもとに実施し、2 年目の平成 16 年は多くの箇所で目立たなくなってきたことが確認でき、大きな効果を上げています。



## 環境に配慮したイベントをめざして

### 農林ピック・そばフェスタ2003環境配慮取組結果

#### 目的

イベントの主催者として環境に負荷を与える要因を最小限にするため、ごみの減量化、自然・水への配慮を行ないイベントを通じて環境に配慮した行動を普及し定着させ、さらに池田町の環境配慮への姿を内外に明らかにする。

開催年月日 平成15年10月19日(日)

開催場所 池田町稻荷 農村公園・マイロードおまつり広場

天候 晴れ

来場者人数 約 15000人

#### 取り組み内容

- ・自然、水への配慮としてイベント会場排水を下水道に接続工事を行なう
- ・ごみの12分別
- ・リサイクルトレーの使用と回収
- ・マイバッグ運動の推進

#### 取り組み結果

15年度の大きな成果は、ごみとして処理した量が半減したということが最も大きな効果である。

イベントで大量に排出される容器(缶・びん・使い捨て容器等)の使用等については、今後も検討を重ね、よりごみの減量化に向けた努力が必要である。

また、中学生が分別のボランティアとして取り組んだことは、町ぐるみで環境に取り組んでいる姿として来場者から高い評価を得た。主催者・出店者は今後もさらに意識を高く持ち、来場者も主催者も共に気持ちのよいイベントづくりを行なっていく。

#### ごみ排出量

	H 14	H 15
清掃組合へ持ち込んだごみの量	420キロ (2tトラック2台)	200キロ (2tトラック1台)
220キロ減量		



中学生の分別ボランティア



リサイクルトレー



マイバッグ推進呼びかけ